

日中友好訪問に参加して

金沢区支部 田野井 信行（子）

戦没者 田野井 茂

戦没地 中国・湖南省

私は昭和十七年生まれ、おやじは昭和二十年十一月二十一日に中国湖北省漢口で戦病死となっている。

勿論、おやじのことは何も判らず、おやじのお墓には遺品らしき物は何もない。代わりに小さい石ころが埋葬されている。若い頃より、いつかおやじの最期となった『地』に行つて自分の眼で確認をしたい。現役をはずれやっと今回その夢が実現出来ました。

九月も中旬を過ぎているのに中国の内陸部は連日熱く三十七〜四十度とのこと。おやじは輜重兵として湖北省の漢口から武昌、湖南省の岳陽、長沙、衡陽、来陽そして広東省との境界に至る鉄道、道路、空港の物資を運搬、警護する任務に携った。日本で言う、東海道線、国道一号線、羽田空港等の大動脈に相当する主要な要衝地帯であった。今でも主要市街から一步外へ出ると荒れはてた緑の丘陵が続き、ここを当時は何十キロも最終戦地に向かつて行軍したとのこと、伝染病にでも掛からないことが不思議なくらい。時間の経過とともに戦況も悪化してきた。おやじは

どこで発症したか判らないがアメーバー性赤痢、外痔核を患い身動き取れない状態にあつたのではないか？ 県の戦没者原簿によると、湖北省・中支漢口の第一七五兵站病院に入院、病死となつている。発病地点と一七五兵站病院との距離は最大で七百キロにもおよぶ、この戦況の中、本当に病院迄担ぎこまれたかは疑問が生じる。これは現地に赴つての実感である。

今回、おやじの最期の地点に辿りつき、第一歩を踏みこんで「来てよかった、ここなのか？」ホテルの一室での慰霊祭は、本当に厳肅に弔文の朗読には感無量、声にもならなかった。

当時在ったとされる第一七五兵站病院の跡地より土、水、空気を採取し日本に持ち帰った。早速おやじのお墓にそれらをまいて六十二年振りの帰国を果たしてやる事が出来た。

おやじもこれで成仏できるだろう！ 息子として親孝行が出来たかな！

我々と同じく戦争遺児となつた仲間は数多く、現地慰霊を希望している人は多いはず、今日の日本の経済力からしても希望者の全員に叶えさせてあげたいものです。国としての責務ではないか。